

広島都市学園大学保護者の会
会 報

【「こころ」の由来：広島都市学園大学の理念である「心技一体」の1文字からつけています。】

第 7 号

発行 広島都市学園大学 保護者の会
発行先 〒734-0014
広島市南区宇品西五丁目13番18号
TEL 082-250-1133
FAX 082-250-1134

学長就任にあたって

自己紹介と学生への期待

学長 河野修興 (こうの のぶあき)

天高く馬肥ゆる秋、保護者会の皆様方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、常日頃、保護者会の皆様方には、広島都市学園大学の教育・研究・管理運営に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

まず、簡単な自己紹介をさせていただきます。平成二十八年四月一日、学長に就任しました。小生は内科医で、呼吸器内科を専門としています。間質性肺炎・肺線維症、肺癌、気管支喘息が特に得意な疾患です。趣味は、囲碁（正式な段位は持っていませんが、四段で打っています）、柔道（初段、西日本以下学生体育大会個人戦ではベスト八入賞）、剣道（初段）、ゴルフ（ハンディキャップ九・〇）、今はMP関節痛のた十六と低迷中）など、多趣味です。

平成十二年から広島大学内科学第二講座教授、平成十六年から二年間広島大学病院副院長、平成十八年から四年間広島大学医学部長、平成二十七年広島大学副学長を務めました。この間、広島県地域保健対策協議会副会長、広島市原爆後障害対策協議会理事、広島県病院事業局経営外部評価委員会副委員長、広島県がん対策推進委員会がん検診推進部会長、大久野島毒ガス傷害研究会会長など五十を超える大学外の委員会活動に従事してきました。

昭和五十三年に広島大学医学部医学科を卒業してから、臨床・研

究に没頭し、医学論文を六百編以上執筆してきましたが、その成果への評価として、平成二十年度七回広島大学学長表彰、平成二十三年科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（開発部門）、平成二十三年度第六十三回保健文化賞（厚生労働大臣賞、第一生命賞、朝日新聞社厚生文化事業団賞、NHK厚生文化事業団賞）・団体名・大久野島毒ガス傷害研究会（代表・河野修興）、平成二十六年度第七十一回中国文化賞を受賞し、平成二十七年広島大学 Distinguished Professor の称号を授与されました。

医学研究者としては、日本内科学会と日本呼吸器学会を中心に活動してきましたが、平成二十六年度第五十四回日本呼吸器学会会長のを務め、来る平成三十年に開催予定の第百十五回日本内科学会では会長に選出されています。日本内科学会の会員数は約十一万人であり、日本では最大の医学会です。その会長は、戦後に作られた大学医学部の教授としては小生が始めて勤めることになりましたので、大変な名譽と思つているところです。本学建学の精神は「心技一体」というもので、人間としての心や高い教養に根ざしたプロフェッショナルリズムの育成にあります。これは普遍性のある重要な理念です。

学長に就任してから半年ほど経過するところですが、小生の経験

から考えると、本学の学生の中には、学習の方法論に問題のある学生が目立つように思いますので、保護者会の会報に描かせていただきますと思います。

それは、授業の有効利用です。授業の利用の仕方がまずい学生が少なからず見受けられるのです。授業中に寝ている。私語を頻繁にする。無断離席、スマートフォンを打っている、などです。その間、授業を行っている先生の内容は聞いていませんから、当然、授業の理解度は極めて低いものになります。一日には、六・七・五時間も授業があります。これは中途半端な時間ではありません。四週間で百二十時間以上になるのです。この時間を有効に使っている学生は悠々と進級・卒業することができそうです。ところが、そうではない学生もいて、先生方が奮起を促しても、なかなか授業に集中できない人々も多いようです。

授業中に学生がすべきことは単純です。まず、①先生が説明していることの中で、理解できることと、よくは理解できないこと、を分別しなければなりません。授業資料や教科書の理解できないところを赤色の蛍光ペンで囲みます。理解できなかった箇所がすぐにわかるようにするためです。そして、②理解できたことの中にも、既に記憶しているところと、これから記憶しなければならぬところとがあります。その記憶しなければなら

ないところに緑色の蛍光ペンで下線を引きます。可能なら、授業中に覚えてしましましょう。③家庭では、簡単な予習と復習をしておけば万全です。①と②で理解できなかったところと、記憶しなければならぬところをチェックすることは絶対に必要です。それでもよく理解できなかったところ

は、図書館などの参考書やインターネットを使って調べます。調べても良くわからなかったところは、先生に質問しましょう。このようにして授業時間を有効に使うことが学修を成功させる唯一の方法です。保護者の方からもよく指導していただければ幸いです。



平成二十七年 学位記授与式・ 平成二十八年度入学式 挙行される

学位記授与式(卒業式)が三月十八日(金)午前十時からアステールプラザで開催され、看護学科から百四名の卒業生を送り出しました。

入学式は四月四日(月)午前十時から、アステールプラザにて行われ、看護学科百十九名、リハビリテーション学科百十七名の新入生を迎えました。

新任教師をご紹介します

看護学科(・お名前 職位 学位 記 専門分野等)

- ・北原悦子 教授 修士(経営学) 博士後期課程満期退学 基礎看護学・母性看護学
- ・松原みゆき 准教授 博士(保健学) 基礎看護学、ホスピス
- ・福田 順 講師 修士(保健学) 子どもの保健
- ・大崎千津子 助教 専門分野・成人看護学
- ・塚本仁美 助手 学位記・社会学士、看護学士、看護学修士
- 専門分野・がん看護学、看護教育学、基礎看護学、社会病理学
- ・三澤眞由美 助手
- ・阿曾沼美南子 助手 専門分野・リハビリテーションヘルス領域

- リハビリテーション学科
- ・原 賢治 講師 博士後期課程満期退学 理学療法士理学療法教育学、教育心理学
- ・石倉英樹 助教 博士(生命シ

受賞関係

STEM科学) 内部障害・地域理学療法

入学式で在学生を対象に、卒業式で卒業生を対象に表彰を行います。

学長賞(在学期間中の成績が最も優秀であった者)

正田結香(看護学科)

優秀賞(看護学科)

平成二十七年年度四年度次生

松下雄揮

柳澤利奈

岩田梨菜

平成二十七年年度三年次生

正戸千秋

江藤麻奈美

平成二十七年年度二年次生

平岡菜弥

方 菜南

平成二十七年年度一年次生

平田紗衣

金子ゆか

(リハビリテーション学科)

平成二十七年年度三年次生

理学療法専攻 佐々木真理

作業療法専攻 田中良啓

平成二十七年年度二年次生

理学療法専攻 尾崎知子

作業療法専攻 宮倉彩加

平成二十七年年度一年次生

理学療法専攻 梅本伸矢

作業療法専攻 山本克志

(子ども教育学科)

平成二十七年年度二年次生

今井秀美

平成二十七年年度一年次生

松浦 優

その他の活動(学術研究活動・課外活動及び社会活動等)

(看護学科)

宮本大輝

橋本菜里子

(リハビリテーション学科)

平成二十七年年度二年次生

理学療法専攻

岩田桃子

(同) 星野魁人

【学外団体からの表彰】

日本私立看護系大学協会表彰(人間性の陶冶につとめ、学業において優れた成績で卒業する者)

正田結香(看護学科)

平成二十八年度高大 連携公開講座を開催

七月三十日(土)午後一時から高校生のために特別に企画された「リハビリテーションの役割」という公開講座をリハビリテーション学科作業療法専攻高島千敬先生が講師となり開催しました。



この講座は、高校生が大学進学選択の参考にすることを目的に、毎年開催されているものです。受講生はリハビリテーション職種に関心があるものの、大半がまだ職業としての具体的なイメージが湧かない状態でした。

講義では、まず現在の社会情勢とリハビリテーションの必要性について解説し、リハビリテーションが社会に求められていることへの理解を促しました。



加えて、本学に専攻のある作業療法、理学療法を中心に、言語療法、心理療法などの関連する職種の業務内容について、また、対象者を中心に据え、各職種が役割を担い支援する「チーム医療」についても、実例を交えながら解説しました。

大学入学後の解剖学や生理学などの講義内容の多さには驚いていたようです。最後に学内の施設見学を行い、各々リハビリテーション関連学部での学業と卒業後の仕事のイメージが湧いたという感想が得られました。

看護学科実習開始 宣誓式を五月二十八日に行いました

看護学科二年 石崎 結

私は、看護職としてどのように看護したいか考えた時、一番に、患者に寄り添いながら看護を提供していきたい。そう思った。看護師は、例えどんな患者であろうと、

その患者の普遍的なニーズに応え、患者の健康な生活の実現と、患者が生涯を通してその最期までその人らしく生を全うできるように、援助、貢献するよう努力しなければならぬ。

そのためには患者とコミュニケーションを取りながら、患者の気持ち、思いに寄り添いながら看護をしなければならぬ。そして、そういった看護を実践するにあたっては、人々の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意のこもった看護を受ける権利、平等な看護を受ける権利など人権を尊重していく必要がある。他にも、知識や技術は当たり前なこと、対象となる人々に平等に看護を提供することや、看護者自身の心身の健康の保持増進に努めること、他の看護者及び保健医療福祉関係者とともに協働していくこと、常に、個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努めることや、個人情報保護に努めるなど、看護を提供する前に、看護職として当たり前のことが出来ていなければならない。そういった、当たり前のことを踏まえた上で、患者に寄り添いながら、患者のことを一番に考え最善の看護を提供していきたいと思う。

看護師は責任の重い仕事であり、中途半端な気持ちでなれるものではない。私はまだ看護師ではないため看護師の本当の辛さを知らない。きっと、私が看護師になり患者とどれだけコミュニケーションを取ろうとしても、患者と向き合おうとしても、向き合ってくれない患者もなかにはいるかもしれない。仕事がうまくいかないときもあるかもしれない。けれど私は諦めずに患者と向き合おうとする気持ちを忘れず、患者のこと

を一番に考え、寄り添い、患者が少しでも気持ちよく来たりするよう看護を軽減出来たりするような看護をしていきたい。そのためには日々勉強を続け、知識を入れ続けていくことも大切であると思う。看護師としてより質の高い看護の提供を心がけなければならぬ。また、質の高い看護を提供するためには、制度の確立に参画し、より良い社会作りに貢献するなど積極性も、看護師にはとても大切であると考え。看護師は多くのことを求められているため、強い精神力もとても必要だと考える。患者がネガティブだからと自分までネガティブになってはいけない。自分は自分の意思を強く持ち、患者を支える立場にしなければならぬと思う。

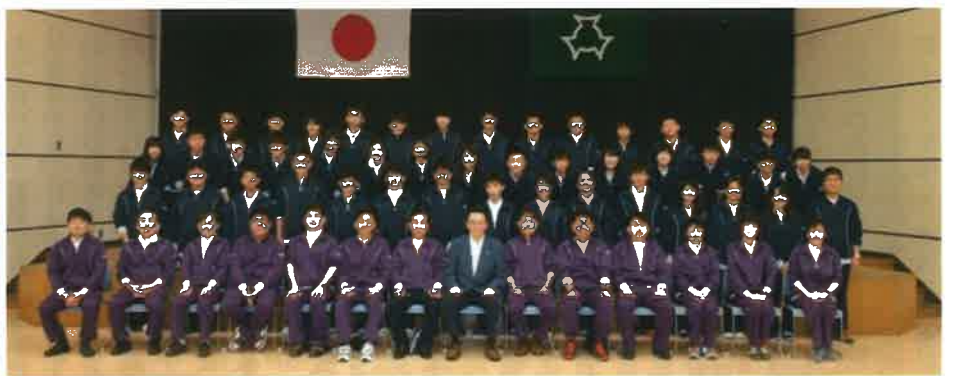
私は、私の周りで苦しんでいる人は助けたいし、一人でも多くの人に笑顔になって欲しい。看護の知識や技術はすごく大切で必要なことだ。しかし、看護師に必要なことはもっと他にも沢山あると思



う。私は、知識や技術面も当たり前に身に付けたいが、そのことばかりにとらわれ、患者のことを考えていないような看護師にはなりたくない。患者は、命、人生、全てを私たちに預けてくれる。不安や恐怖を抱えながらも、全てを預けてくれる。全てを預けてくれる患者に対してどういった看護をすべきなのか、どういった看護師になるべきなのか、思うことは沢山あるが、私が一番大切にしたいと思うことは、患者に寄り添うということ。私は、患者に寄り添うことのできる看護師になりたい。そして一人でも多くの人を助け、笑顔に出来る様、努力していきたい。

コミュニケーション 技法宿泊研修を開催

一年生と二年生の必修科目授業「コミュニケーション技法」宿泊研修を、心技体の教育理念に基づき、宇品キャンパスの看護学科と子ども教育学科が五月十五日から十七日まで江田島で、リハビリテーション学科は六月十二日から十四日まで三瓶山で、それぞれ宿泊研修を行いました。



ブックハンティング

リハビリテーション学科
作業療法専攻二年
阿萬ふみ

このブックハンティングは、「買いたい本があるが高額で手が出せない専門書を購入したい」「図書館に置いてある専門書の領域を広げたい」「あるいは「図書館に自分の読みたい本がないため自ら選書したい」といった学生の要望を、保護者の会の支援のもと私たち学生自身が行動し選書する方法として行われています。

当日は各学部から十数名が参加し、MARUZEN広島店で行われました。私は今回二回目の参加でした。前回ブックハンティングに参加させていただいたときに、MARUZEN広島店に取り揃えられている多くのジャンルの書籍、また最新の書籍の中から選書するのに時間はかかったものの、とてもわくわくしながら選書することができました。そして、選書する書籍のジャンルがとても広いことに驚き、また参加したいという思いになりました。

大学での講義



の中には医療に直接関係しない選択科目の講義もあります。しかし、その中にもとても興味をひかれ、もっともっと学びを深めたいと感じる講義が多くあります。そういったときに講義に関連する書籍がもっと図書館にあると、人間の教養の部分や興行きやおもしろみを深めることができると思います。

ブックハンティングに参加する学生を増やすことで、図書館に置いてある書籍をもっと充実させることができる実感したので、これから周りの友人たちにもブックハンティングを紹介し、参加してもらいたいという思いになりました。

就職ガイダンス

リハビリテーション学科は今年、最初の四年生が誕生したことで、文部科学省では「完成年度」を迎えた学科と言います。一年生から四年生まで全ての学年が在籍しています。看護学科の完成年度は四年前になります。四年生を持つ大学にとっては彼らの就職が重要で、そのために「就職ガイダンス」等で、卒業生の就職面接の助けを行う大事な役目を持つのです。

四年だけでなく、二年生・三年生には「実習マナー講座」を開催し、四年生には、六月三日に「就職活動の準備、心構え講座」を開催、九月十五日に「就職面接対策



講座」九月二十日には、病院・施設ガイダンスを開催しました。参加して下さった病院・施設は、午前が二十五、午後が二十七で、合計五十二の病院や施設様が

四年生のために時間を割いてくださり、病院や施設ごとの環境や条件を直接、伺う機会を得ることが出来ました。



平成二十八年度 第一回「保護者の会」 総会議事録

- I. 日時：平成二十八年度四月二十三日十四：〇〇～十六：二〇
- II. 場所：大学宇品キャンパス一号館四F中講義室
- III. 出席者：保護者五百六十九名（委任状含む）（会員総数九百七名）

大学関係者：総長、学長、事務局長代行（現・事務局長）、西風新都キャンパス事務局長
開催に先立ち、事務局から会員数及び出席者数と委任状提出者数の報告があり、進行を正戸友喜副会長、議長を丸山英治会長、書記を佐々木ゆう子副会長、書記補佐を西風新都キャンパス事務局長が行う案を議場に提示し、拍手により開催が承認された。引き続き、古澤敏昭総長、河野修興学長並びに丸山英治会長から挨拶があった。

【議事】

一、議長が第一号議案「平成二十七年事業報告について」を提示。事務局が説明し、審議の結果、拍手多数により承認した。

二、議長が第二号議案「平成二十七年決算について」を提示し、事務局が説明。続いて、竹下静香監事が監査報告を行った。看護学科四年の保護者から、

三年次実習旅費援助金額が前年度までと違うとの質問があり、会長から、前年度の総会で従前は学生に実習先交通費の領収書等を申請書に添付の上で提出させていたが、学生の負担軽減を考慮し、また、実習お疲れ様の意味を込めて定額助成とする事が承認されたことを説明した。続いて、看護学科一年生の保護者から、保護者の会会費年間二万円の使途内訳について質問が出され、学生が精神的に勉学に励む環境つくりのために支出するべきとの意見があった。審議の結果、拍手多数により承認した。

三、議長から第三号議案「平成二十八年度事業計画（案）について」を提示。事務局が説明し、審議の結果、拍手多数により承認した。

四、議長から第四号議案「平成二十八年度予算（案）について」を提示し、事務局が説明。実習旅費への助成金額が看護学科とリハビリテーション学科とで違うことに質問が出され、リハビリテーション学科の実習先に県外が多いことが理由と説明。また、入学式での学生表彰に、保護者会からの表彰金を出してはとの意見に、成績優秀者には図書カードを渡し、課外活動表彰

者には賞状のみと説明し、学長から、この表彰は履歴書に書けるので、表彰されることが学生にとっては良いことと説明した。保護者会に入会していない場合も表彰金を渡すのかといった意見もあり、役員会に一任するとして、審議の結果、拍手多数により承認した。

五、議長から第五号議案「平成二十八年度役員会について」を提示。十名の理事、監事のうち、四年生の理事が六名おられることを説明し、理事就任を募った。役員名簿（案）を拍手多数により承認した。総会終了後、役員業務の説明会を行うと説明。

六、議場から、承認方法を拍手でなく挙手を希望する意見が出された。また、議長を会長以外とし、会長が質問に回答する方が望ましいとの意見が出されたので、「その他」として配布した規約から、第七条第一項による旨を説明。今後、役員会で検討するとした。

七、進行が閉会を宣言した。

保護者の会決算報告

【収入の部】

会費：看護学科三百五十六名分・リハビリテーション学科二百八十三名分の計一一、七八〇、〇〇〇円
利息：二、一三四円
前年度繰越一〇、七〇九、六六五円
収入の部合計二三、四九一、七九九円

【支出の部】

学生行事への援助費：大学祭六五九、三七六円
大学行事への援助費：学位記ホル

ダー授与・謝恩会への助成

二二二、〇八二円

国家資格取得援助費：四、六三

五、八〇〇円

教育上必要な施設・設備に関する

援助費：一、七〇〇、七四八円

実習旅費等援助費：七、五六一、

三七二円

卒業記念品：一六一、三〇四円

役務費：会報「こころ」印刷費（二

回）一七一、五〇四円

会報送付・総会案内送付：二

二〇一、〇〇二円

役員会旅費：一九一、〇〇〇円

次年度繰越：七、九八七、六一

円
支出の部合計二三、四九一、七九九円

平成二十八年度 保護者の会 役員のご紹介

総会終了後、保護者の会役員から役員業務の説明があり、看護学科から三名、リハビリテーション学科から四名の保護者の方に新しく役員に就任していただきましたので、今年度の役員の皆様をご紹介します。

会長：

丸山英治様（看護学科）

副会長：

正戸友喜様（看護学科）

佐々木ゆう子様

（リハビリテーション学科）

理事：

河重律子様（看護学科）

中井信子様（同）

森田紀子様（同）

上條久美子様（同）

西田明子様（同）

西村徳弘様（同）

宮迫洋子様（同）

村上尚史様

（リハビリテーション学科）

重村智恵子様（同）

藤谷千鶴子様（同）

柏原幸子様（同）

宮脇美成子様（同）

監事：

吉川利江様（看護学科）

竹下静香様

（リハビリテーション学科）

編集後記

これまで読むだけの人でしたが、いざ編集担当となると、これまで横目で見ていた担当者の苦勞話を思い出しながらの作業となりました。パソコンで編集しましたが、Wordの機能を調べながらの作業で、知れば知るほど、このソフトに感心します。「こころ」の編集は健康科学部全体を知ることにもなり、楽しみながら編纂作業にもなりました。そして、学長先生を始め原稿依頼にすぐに応答して下さいました皆様へ心から感謝します。原稿が届く→割付が埋まっていく→そして、満足感に満たされました。

